

二中学区地域の輪をつくる会

3つの誓い

- ふれあいの輪を 広げましょう。
- あいさつを かわしまししょう。
- 明るい家庭生活を 築きましよう。

vol.95

# ふくわ

●発行 二中学区地域の輪をつくる会 ●編集 広報委員会 ●事務局 市毛コミュニティセンター内・ひたちなか市市毛980・TEL.029(272)3766 ●印刷 弘美印刷(株)



昭和40年頃の国道6号 市毛十文字

**市毛**

那珂川に至る広い田んぼを見下ろす台地には、古くから人々が生活を営んでいました。そのため、地内には、筑波台遺跡・市毛上坪遺跡・市毛下坪遺跡・市毛本郷遺跡・市毛遺跡があり、縄文前期からのものが多く出土し、広大な集落跡などが発掘されました。「常陸大掾伝記」によれば、鎌倉時代には、吉田広幹の六男茂幹が地名を苗字にして市毛氏と名乗り、地頭として土着していました。その後、江戸時代後期の小宮山楓軒が著した「水府史料」は「大掾氏の族吉田太郎の子、市毛四郎幹時居すといふ。子孫いつの比迄住しや其詳

なると、堀土居の跡わずかに残り。」と伝えていきます。市毛館跡は、筑波台団地の南側にある、お不動尊あたりにあったと考えられます。また、そのすぐ下にあった不動滝（今は現存していない）では寛文の中頃に、刀鍛冶で有名であった大和守吉道が、その水で刀を鍛錬したと伝えられています。（勝田市史）

なお、江戸天保中は、原坪・本郷坪からなり、戸数は53戸だったそうです。市毛の地名は、「市」が開かれたことと関係があるようです。隣の津田には「草市」と呼ばれる小字があり、草市は、7月12日の夜、盆の精霊祭りに供える蓮の葉、おから、ほうずきなどを売る市が開かれていたところから下市（市下）市毛と呼ばれるようになったと考えられています。また、市毛は、枝川・田彦・佐和と同様に街道によって発展したムラでした。

現在の国道6号は、江戸時代は江戸から水戸までは「水戸街道」、水戸から岩（磐）城平、陸奥相馬を結ぶ「岩城街道」と呼ばれていました。



明治25年地形図



昭和37年頃の「津田橋」の景観



昭和29年頃の国道6号 水戸刑務所東側

## 二中学区の歴史を探る ③

今年度も「コロナ禍」のため、各部会・自治会では各行事を自粛または中止として来ました。それに伴い、編集委員会で検討し、今回も1面・2面に「続・歴史探訪」の記事を掲載することと致しました。私たちが暮らす二中学区は、時代とともに様々な変化を遂げてまいりました。人々の営みは少しずつ形を変え、今に至っています。生まれ育ったこの地の歴史を少し振り返ってみましょう。

明治5年には、武州千住（東京）から常州水戸を経て陸前（宮城県）岩沼に至る道路として「陸前浜街道」と改称されました。（市報かつた）



舗装されていない当時の市毛坂



今も当時の酪農家の一部が残されている

**浜街道の松並木**

明治時代の浜街道は人通りが少なく、時にはお嫁入の行列までもおいはぎにあつてしまふような淋しい道だったそうでした。しかし、原坪付近は、両側に松並木が続いており、そのため、明治19年の枝川宿の大火の復興では、この松が大きい復興で、被害者一戸当たり役立の巨木2本が、2円50銭で払い下げられ、枝川その住民は大変助けられたそうです。



谷中前の国道の両側「切通し」

**津田**

那珂川・早戸川下流域に位置しています。天神山の北側に奥深く入り組んだ浸食谷に谷津田が開かれて集落が発達したため、谷津田から「津田」の地名がつけられたといわれています。また「津田は つんぬけ山ばかり」といわれるほど山の多かつたところのため、その山のツタカヅラから「津田」という地名になったともいわれています。（勝田市史）

那珂川を臨む標高20mの台地には、津田西山古墳群・天神山遺跡・上馬場遺跡・津田若山遺跡・黒袴遺跡・西中島遺跡・片岡遺跡などがあり多くの出土品が発掘されました。弘安2年（1279）の「常陸国作田惣勘文」（弘安田文）には、「津田十二丁」とあり、常陸国那賀東郡に津田があったことがわかりました。さらに、天神山には、戦国時代に築かれたとみられる豪族の館が築かれて、若宮という崖緑の竹林からは何基かの五輪塔が出土されました。佐竹氏が支配したころは、佐竹義宣の直轄地。江戸時代は、水戸藩領で、天保年中の戸数は76戸だったようです。

津田開拓

戦前の津田は、平地林におわれ、稲作・麦作を中心とした農家が点在するだけでした。その津田にとって、①開拓移民の入植 ②日立製作所の住宅団地（津田西山・駒形・天神山）の造成は大きな出来事でありました。

満州からの引揚者は、1947年から1949年の3年間に、30戸139名が入植しました。その後、入植者たちは、想像を絶する苦難を乗り越えながら、酪農を中心に養豚や養鶏を営みました。

（市・地域団体の存続基盤）津田開拓の土地は、軍需工場のための日立製作所の買収地でしたが、日製は未墾地に農場をつくり開墾をすすめていきました。そのため、日製はなかなか土地を手放さなかつたとのことでした。



日製津田農場（炭焼き風景）



旧津田開拓記念館



トラクタによる開墾



養豚風景



津田集会所・敷地内に建つ津田開拓記念碑

最終的には、1戸あたり2町5反歩、防風林と共同放牧場を加えて3町5反歩の土地が開放されました。（勝田市史）

枝川

枝川は、那珂川と早戸川流域に位置しています。集落は那珂川沿いの自然堤防洲に発達しました。そのため、洪水に度々みまわれていました。

しかし、那珂川は洪水という災害をもたらす一方、経済・文化の発展に大きな役割を果たしていました。江戸時代には、江戸と奥州を結ぶ浜街道の渡船の宿場として、また那珂湊と江戸、あるいは栃木県那須地方を結ぶ舟運の中継所として、仙台河岸、五兵衛河岸、二見河岸が設けられ、早くから栄えました。

仙台河岸

元禄4年（1691）河岸の間屋瀬尾久兵衛は、江戸から仙台に下る太物荷物に目を付け、これを独占的に水戸領内を通して岩城街道経由で仙台へ送る輸送路の開発を考え、その輸送路は荷物を江戸から船積して江戸川・利根川・北浦経由で串挽に揚げ、そこから海老沢まで陸送し、海老沢から再び船積して枝川河岸に水揚げし、そこから岩城街道を経由、仙台に至るものでした。（水戸市史）

枝川と水戸市細谷の間は、明治初期までは渡船によって結ばれ、その場所は、舟渡町（ふなどちよう）として地名が残っています。



川数が多い地域・枝川と名付けられた



大正期の宿場

枝川の地名は、鎌倉時代のころから名付けられました。また、枝川は他の地域からみると、地盤が低く、津田・市毛・堀口という高台に広大な山林があるため……

そのため流れるたくさん的小川が那珂川近くなると那珂川に沿って地域が狭い割合には、鳴戸川（早戸川）・反川（馬橋川・境川・横川）などの川数が多く、しかも木製の枝のように流れていました。その地形から由来して誰いうとなく「枝川」と名付けられたと思われる。（ふるさと枝川昔話）



昭和13年の洪水



昭和61年8月5日の洪水



浜街道の町並み



二中学区のボランティアによる協力隊が支援



令和元年10月12日・台風19号による洪水が発生



那珂川沿岸（白製のG1タワーを臨む）

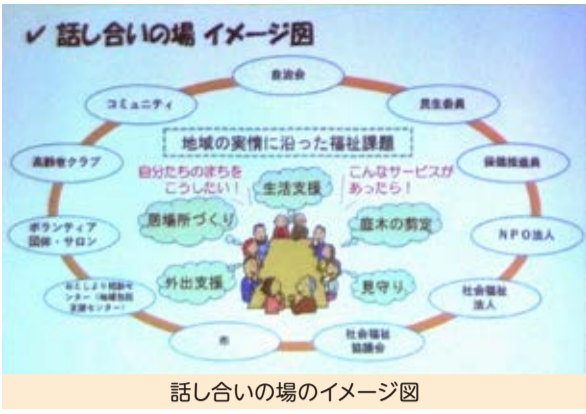
### 「二中地区 ふれあい会議を開催」

「二中地区「ふれあい会議」を今年度は「コロナ禍」により第1回の会議は「書面表決」での協議でしたが、今回は第2回の協議を再開しました。

各自治会役員・民生委員と学識経験者や市より社会福祉課と地域包括センター担当職員など40名が参加し、今まで検討してきた内容の確認のため、「今までのふりかえり」と題して確認・協議をしました。

地域の「たまり場・サロン」の運営状況や、今後必要とされる「地域福祉」の推進に向けた「ゴミ出し支援」事業に優先して取り組むことを皆さんで話し合いました。

高齢者が元気に活躍できる二中地区を目指し「ふれあい会議」を定期的に開催し、検討して参ります。



### 「てびくり」でつながる 津田コミセン

コミセンロビーに設置した大型ボードには、全64団体のコロナ撃退への思いを繋げました。



大会議室を画廊に見立て、使用団体の活動の写真を展示しました。主人公が輝く写真は、パリのルーブル絵画に負けない輝きを放っています。

まだまだ立ち寄りられた方々にも好評で、また新たな輪を広げています。



### 実践部会活動報告

#### 市スポーツ協会 功労者表彰式

体育部会

ひたちなか市スポーツ協会の功労者表彰式が1月16日(日)にワークプラザ勝田で開催され、加盟団体推薦24名とスポーツ大会で好成績を収めた7名にスポーツ協会長の長谷明市長から表彰状が授与されました。

二中地区からは市毛北自治会地域スポーツ指導員の相田次男さんが永年に亘り二中地区運動会の運営や勝田マラソンの走路誘導などを務めた貢献に対して表彰されました。



#### 環境部会最近の活動

環境部会

今年度は感染症の蔓延で活動に支障がありました。12月に早戸川岸(枝川地区)の清掃を行い、石油ストープなど多数の不法投棄ゴミを回収しました。今後は各自治会委員による不法投棄パトロールを通じて地域環境の美化に取り組みます。



### 地域トピックス

#### ふれあい歩く会の開催

勝田本町自治会

11月13日(土)に運動不足の解消と歩いて知ろう我が街をコンセプトにふれあい歩く会を開催しました。

本町第二公園を出発し、水戸工場創業の地の碑↓鹿島神社↓金砂神社↓加波山神社↓小場江用水↓光明寺↓武田氏館と約6kmを2時間半で歩き自治会館にて解散しました。改めて地元の名勝や街の変化に触れることができ、楽しいウォーキングとなりました。



#### 堀口公園の桜が雪化粧

堀口自治会

堀口公園は、平成元年5月に開園しました。今では毎日、多くの子どもたちが、楽しそうに遊んでいます。

1月6日午後から、しんしんと降り続いた雪で、堀口公園の樹齢400年の桜の木も雪に包まれました。

木の枝の雪化粧が、ライトアップに映え、いつもとは違う風情ある風景へと変貌しました。

コロナ禍の中で、子どもたちの体力が心配でありましたが、公園ができたことにより体を動かし、友達と元気に遊ぶ姿を見るときは、地域に公園の必要性を改めて感じます。

また、緊急事態宣言が解除され、高齢者サロン「さくら・桜」も10月と11月には、公園で開催しました。

4月の桜満開のときは、雪景色のようになるのが楽しみです。



### 健康教室の活動紹介

ワイワイふれあい館

毎月第二、第四、火曜日の午前中に15名程度(現在は全員女性)の学級生で、工藤先生のご指導のもと活動しております。

コロナ禍の中で活動もままならない状況もありますが、十分な感染症予防対策を講じながら開催しています。

今年最初の教室は1月11日、年末年始の休みで、運動不足だった

た身体を、これまでの体操に加え、運動器具を使った運動も取り入れ、楽しく実施することが出来ました。

皆様、フレイルの予防改善にご一緒に活動してみませんか!ご希望の方は、ワイワイふれあい館までお問合せ下さい。

(植木・須賀川)



市毛小学校で「農業の講話」

津田第一自治会

市毛小学校の総合学習で「農業の講話」の講師として2名の会員が参加しました。

「干し芋のできるまで」では、昔ながらの製法にこだわり、薪につけた火を使用して蒸し、完全天日で干していることや芋の苗植えから芋掘り、外でのスダレに干すまでの一連の工程について話しました。

「野菜と花木の育て方」ではトウモロコシを例に野菜の育て方を、花木については「桃の花」の出荷の様子を、スクリーンに映し出してお話をしました。児童たちは興味深く聞いてくれ、最後には多くの感想を述べてくれました。



市毛小で「農業の講話」

元気アップ体操会

津田第一自治会

保健推進員を中心に津田コミセンで月2回(第1・第3水曜日)の活動をしています。昨秋約2年ぶりに「ラプラス津田」より講師を迎えて研修を開催しましたが、年明けから再度中断しています。しかし心も体も健康を保つには、お話を(電)話でもO(K)、体を動かすことが大事です。『継続は力なり』、再開後には見学も大歓迎です。



児童たちが地域体験で見学

全校音楽発表大会への支援

枝川自治会

枝川小学校では、毎年「全校音楽発表大会」を開催しております。今年も11月6日(土)に盛大に開催されました。

今年度も「コロナ禍」で自粛・中止が懸念されましたが減少傾向になつたため、対策を行い予定どおり開催することができました。小規模校ではありませんが、昔から特長を生かして音楽活動を続けております。練習を重ね合唱や吹奏楽を堂々と発表されました。

地域コミュニティの拠点である小学校を、改めて認識し地域が一体となり支援して絆を強めて参ります。



児童全員で素晴らしい合唱

三世代ふれあい交流会

枝川自治会

11月20日(土)枝川小学校において、三世代ふれあい交流会を盛大に開催しました。

地域の子どもたちと保護者・先生方・高齢者など大勢の参加により実施できました。今年も好天に恵まれ、全員でグラウンドゴルフなどを賑やかに実施し、三世代で楽しい懇談もできました。

今回は「コロナ禍」感染防止のため「昼食」などの「密集」する行事は中止しました。地域の皆さんとの顔合わせができ、地域の連携が高まり、有意義な交流会でした。



子どもたちの輪投げ競技!

子どもサンタ登場

津田第二自治会

12月18日(土)体育部主催で、子どもたちにクリスマスプレゼントを配布しました。

新型コロナウイルスのため秋季大運動会などが中止されたため、子どもたちの思い出づくりにと、昨年につづき二回目の開催でした。

当日は、子どもからサンタからお菓子のプレゼントをもらい、子どもたちの笑顔があふれていました。



「あ・トナカイさんも」

光り輝くイルミネーション

津田西山自治会

コロナ禍での厳しい生活環境が続く中、地域住民の皆様にも元氣をお届けできればと、昨年度から始めた西山公園花壇のイルミネーションを、本年度も12月初旬に設置しました。飾付は青空子ども会の子供達と共同で行いました。

昨年度の倍の規模となった夜空に光り輝くイルミネーションは、皆様に笑顔をお届けできましたでしょうか。



光り輝くイルミネーション

自治会自慢

「年末・年始」防犯・防災夜間パトロール

津田第一自治会

昨年12月13日(月)から1月14日(金)にかけて恒例の夜間パトロールを行いました。パトロールは4人態勢で、1時間半から2時間をかけて拍子木を鳴らしながら、徒歩で地域内の防犯・防災のために毎年実施しています。

また、防犯灯や生活道路などの安全確認もしています。これからは寒さも緩んできますが、まだ空気の乾燥が続きますので、くれぐれも「火の取扱い」には十分に注意し、健康に過ごされることを願っています。



夜間1時間半~2時間の徒歩でのパトロール

青色防犯パトロール出発式

年末防犯強化運動として12月12日(日)勝田二中地区自警団による青色防犯パトロール出発式が、市毛コミュニティセンターにて行われました。

各自治会の班長・青色防犯パトロールのドライバー及び市役所・警察署など関係者が参加され、出発式の後、地域の安全・安心のため青色回転灯装備車による一斉パトロールが師走の街を巡回しました。

◇青色回転灯防犯パトロール運転ドライバーです

- 佐藤 新平(津田第二)
- 間部 毅(津田第二)
- 推 和江(津田第二)
- 吉村 利夫(津田第三)
- 南条 進(津田東)
- 海老澤 寛(津田西山)
- 古徳 廣國(市毛北)
- 小松 一美(市毛南)
- 郡司 利男(枝川)
- 佐藤 大(堀口)
- 菊池 年洋(武田)
- 藤田 正昭(勝田本町)



青パト出発式



青パト運転ドライバーの皆さん

案内板

◆令和4年度  
二中学区地域の輪をつくる会  
定期総会のご案内

日時 4月23日(土)  
午後1時30分  
場所 市毛  
コミュニティセンター

編集後記

広報誌「ふくわ」の編集では、各自治会の広報委員全員が参画して編集を行うことを大原則で進めて参りました。しかし、コロナ禍でこの原則を維持するのが困難な状況となりました。

紙面毎の編集作業では、担当者同士、顔つき合わせての作業が必須となります。このため、ソーシャルディスタンスを保つのが難しくなります。しかし、情報発信を絶やさないのも、広報担当の重要な役割と考えています。

コロナ禍で、先が見通せない昨今、今回も各実践部会並びに自治会においては計画通りの活動が出来ませんでした。一方では、ウイズコロナでの活動も報告されるようになって参りました。

本紙3月号では、この様な状況下で活動されました内容と、93号で好評を頂きました『二中学区の歴史を探る』を併せて掲載する事と致しました。



広報編集会議の様子

コロナ対策を!